



森のめぐみ講座・スノーシュー
菅平高原一本松の前で

核兵器禁止条約と「女性のイニシアチブ」
 昨年は、国連で核兵器禁止条約が採択されると
 いう大きな進展があ
 り、そこで、日本の
 被爆者をはじめ、女
 性が重要な役割を果
 たしました。国連の
 舞台に並んだ国際政
 治家たちも、推進役
 としてノーベル平和
 賞を受賞した「核兵

この1年、北朝鮮の核・ミサイル問題、その脅威すら「利用」した安倍政権の改憲への動きがすすめられてきました。最近の南北融和、米朝直接対話への動きは、朝鮮半島の緊張緩和への一歩となる可能性を期待させます。今こそ、らいてうの「ただ戦争だけが敵」という思いをもとに、対話による平和解決を求め、9条改憲を断念させて日本が平和外交に踏み出すための運動を強めるときでしょう。

◎総会で語り合いました
 らいてうのこころざしを今に生かす
 会と「家」の活動

おぼろけの会ニュース

発行
 平塚らいてうの会
 〒112-0002
 東京都文京区
 小石川
 5-10-20-5F
 TEL・FAX
 03-3818-8626

器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の担い手も、多くが女性。「女性のイニシアチブ」は平和をつくるカギだということを、2月のらいてう講座「女性がつくる平和社会―核兵器禁止条約を中心に」の講師・川田忠明さんは事実をもって明らかにされました。

太陽光発電問題は正念場

今期、会が真正面から取り組んできたのが、らいてうの家の前の太陽光発電問題です。事業者はいまだに着工できず、アセス担当者が「設置しない」代替案（ゼロ提案）を含む「中間評価書案」を示すという異例の展開は、私たちの運動の成果です。事業者とも地域の人びとも行政とも話し合い、計画を白紙撤回させて、この地を「自然のいのちの営みを守る平和のひろば」として育てることができるかどうかが、まさに正念場の年です。

学習・研究と家の維持管理―会の活性化を

前年の記念事業の続きとして、「らいてう」ブックレットや「家」紹介のDVDの作成、らいてう資料の保存などにとりくんできました。「家」の企画展示、らいてう講座や森のめぐみ講座、スノーシュー体験なども実施し、『紀要』10号も発行しました。こうした活動をさらに継続・発展さ

せていきましょう。今年のらいてう忌は、改憲の動きと家族・国家についての講演会です（左記）。「家」は13年目を迎え、改修・修繕や備品の更新などが増えています。今後の維持管理について真剣に検討し、問題点を明らかにして解決すべき時に来ています。新しい力で会の活性化を図り、もつともつと多くの方にはらいてうのこと、このころざしを伝えていくにはどうすればよいか、総会で語り合いました。

第19回通常総会と学習会のご案内

日時 2018年5月27日（日）13時開会
 会場 東京ウイメンズプラザ 第1会議室
 議題 ①17年度事業報告と決算報告
 ②18年度事業計画（案）と予算（案）
 ③新役員選出 ④その他

学習会・14時30分 同会場

「地域・風土に見合う自然エネルギーとは」（仮）

らいてうの家オープン

4月28日（土）10時45分から

合唱団「はーもーにー」春のお茶席

らいてう忌・講演会

6月10日（日）14時～16時30分

演題 「改憲の動きと家族・国家」

講師 山口智美さん（モンタナ州立大学准教授）

会場 東京ウイメンズプラザ 視聴覚室

森のめぐみ講座 7月16日（月）17日（火）

らいてうの森で笹刈り・蚕都上田めぐり

らいてう講座 女性がつくる平和社会——

核兵器禁止条約を中心に
川田忠明さん（日本平和委員会常任理事）

2月3日、東京ウイメンズプラザで「らいてう講座」が開催されました。

昨年国連で採択された核兵器禁止条約の交渉会議に参加された川田忠明さんをお招きし、約40人が参加しました。講演の要旨（抜粋）を紹介します。

核兵器禁止条約はなぜ歴史的なのか

条約は、核兵器を禁止すると多数決で決めたことが画期的です。国際政治で民主主義が勝利したと言えます。市民社会の役割も大きく、被爆者や世界の反核平和の動きがあつて実現しました。

昨年、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞しました。中満泉国連軍縮担当上級代表が述べたように市民社会が世論をつくり、核兵器という大きな問題が動いたのです。被団協の代表理事の坪井直さんは「決してあきらめず続けていくこと。それができるのが名もなき市民であり、そういう人たちが世界を動かす」と言いました。被爆者の方、署名運動や6・9行動などに取り組んできた全ての方々に贈られた賞です。

国連会議をリードした女性たち

国連会議をリードしたのは女性たちでした。数

が多いだけでなくエレン・ホワイ特議長はじめ女性たちが果たした役割は素晴らしいものでした。条約には核兵器と女性の問題についても明記されています。

「核兵器の破滅的な結果は……人類の生存、環境、社会経済的發展、世界経済、食糧安全保障、現在および将来世代の健康に重大な影響を与え、また電離放射線がもたらす結果と相まって女性と少女に不均衡な影響を与える」

国際社会は、20世紀末頃から戦争が女性にもたらす影響の大きさを認識するようになりました。性奴隷、強制売春、強いられた妊娠の継続、その他あらゆる形態の性的暴力が戦争犯罪であるとしています。そういう認識で日本は「慰安婦」問題について対処すべきだと思います。

核軍縮交渉への女性参加の意義

核兵器禁止条約には男性と女性双方の参加を強調した上で「女性の核軍縮への効果的な参加を支援することを約束」と書かれています。

2000年に採択された安保理決議1325では「あらゆる意思決定レベルに女性の参加が増えること」「平和維持活動にジェンダーの視点を取り入れる」「ジェンダーに基づく暴力……から女性と少女を保護する」としています。

北朝鮮の問題——対話と交渉が唯一の道

2015年の安保法制（戦争法）により自衛隊法が改正されました。戦略爆撃機が北朝鮮の攻撃を受けたら、自衛隊は自動的に巻き込まれることになりま。国会も国民も知らない間に、戦争に巻き込まれる危険があるのです。

核による「抑止力」は役に立ちません。対話と交渉が唯一の道です。トランプ大統領は対話を否定していませんし、金正恩は今年の元旦に「北南関係改善の問題を真摯に議論し果敢に切り開くべき」と演説しました。無条件で直接対話し先制攻撃しないと確認するだけで、状況は変わります。

平和創造における女性の役割

「生命を生み出す母親は生命を育て生命を守ることをのぞみます」という日本母親大会の言葉通り、平和創造における女性の強さ、役割の大きさを感じます。

戦争法反対の時、「ママの会」が立ち上がりました。洗濯物を干しながらデモに行けるか考える。集会に参加しながら子どものお迎えを誰に頼むか考える。頭だけでなく心のなかで平和のために力を尽くすことが一つになっているところに女性の強さがあると思うのです。

壮大な構えで巨体な地殻変動を

野党共闘を力に政府に迫り共通政策に禁止条約参加を入れることが大事です。日本がアメリカの核兵器の傘に頼ることは核使用を認めることになります。被爆国日本は核兵器の非人道性を知っていると、国内外で発信していく必要があります。

今取り組んでいる3000万署名は5月までの短距離型、「安倍の9条改憲」反対1点で共闘して広げるものです。ヒバクシャ国際署名は、2020年までに世界数億を目指す長距離型の運動です。構え、知恵、大胆さが決め手であり、巨大な地殻変動をつくる気概をもって運動にとりくんできましよう。

（飯村しのぶ）

森のめぐみ講座・2月25、26日 スノーシューと上田の文化を訪ねる

らいてうの会のスノーシューの企画には、以前から参加したいと思いながらも、日程その他の事情で機会がなかったのですが、今回やっと念願がなつて夫とともに参加しました。

1日目は、上田の文化を訪ねる

上田駅のすぐ近くのエディターミュージウム・小宮山量平の編集室を訪ね。東京、神奈川、千葉から14人、地元13人の総勢27人が押し掛けました。ぎっしり並んだ椅子に腰かけて、館長の荒井きぬ枝さんから父小宮山量平氏の仕事についてお話を伺いました。



1947年に理論社を創設した小宮山量平さんは、意外にも身近な存在であったことに驚きました。名前ぐらいしか知らなかったのですが、私の子ども時代に接したり、聞いたことのある絵本や童話が、たくさん小宮山氏によって理論社から発行されていたのです。児童文学の「つづり方兄妹」「北極のムーシカミーシカ」「ちびっこカムの冒険」に始まり、「キューポラのある街」「チョコレート戦争」「宿題ひき受け株式会社」「ベロ出しチョンマ」「ブルーウー」

「兎の眼」「太陽の子」などなど、映画になったものも含め、数多くの童話や絵本が小宮山氏の手によって発行されていたということに、驚きと感動を覚えました。荒井きぬ枝さんのお話は小宮山氏の仕事の幅の広さと深さを伝えてくださいました。その仕事の大きさと、親しさを感じ、また機会があれば訪れて、ゆっくり作品の一つひとつを手にしたと思います。

昼食後は、上田市内を散策。上田城跡も一度はみておきたいと思い、ひとまわりしたあと、バスで菅平へ、お迎えの車でペンション・パルファンベールへ到着。

2日目は、スノーシューで森の命を感じる

スノーシューを履いたのは初めてでしたが、意外と楽に新雪の上をサクサクと歩け、たつぷり楽しむことができました。インストラクターの方のお話を聞こうと、なるべく前へと歩いていたら、いきなりズボットと足を取られ、雪の深みから立ち上がるのにひと苦労、雪がやわらかいせいか、体重のせいかな？ うさぎの足跡や小鳥が虫をとるために木の皮をはいだ跡や、枝を飛び交う姿を見たり、牧場から根子岳をながめたり・・・菅平の森の中を散策しました。一本松の近くに來ると、「ここらで休憩しましょう」と、ガイドさんが手際よく雪をまあるく削ってできた大きな雪のテーブルを囲んで、ホットワインと練乳をかけたかき雪？をおいしくいただき、幸せな気分にならずか2時間の散策でしたが、真っ白な世界を歩く快感をしっかりと堪能しました。(佐藤実喜子)

第13回 平塚らいてう賞 贈賞式

3月10日(土) 日本女子大学において第13回「平塚らいてう賞」の贈賞式があり、米田佐代子会長他4名が出席しました。



昨年、第12回「平塚らいてう賞」(特別)をいただいたNPO法人平塚らいてうの会を代表して、米田会長が記念講演。これまでのらいてう研究から見えてきた「新しいらいてう像」について、自然・母性・平和の3つをキーワードに、映像を交えながら報告しました。

今年度の受賞者は、「シルビア・パンクハーストの女性解放と国際平和活動の研究」をされた中村久司氏、「男女共同参画社会を実現するための教師をどう育てるか、その研究と実践」の佐久間亜紀氏、「憲法上のジェンダー平等規定とその解釈―憲法24条の再定位」の川口かしみ氏でした。

受賞作品の中でひとときわ光っていたのが中村久司氏の著書で、サフラジェットたちの努力と苦闘の跡をしっかりと把握するために、ロンドンをはじめ英国各地の歴史を実際に訪れて調査・記録し、史実を尊重し説得力を生み出したものであるという選考委員のコメントがあり、とても興味を惹かれました。『サフラジェット―英国女性参政権運動の肖像とシルビア・パンクハースト』(大月書店)が出版されています。

(井上美穂子)

らいてうの家隣接地の

「太陽光発電計画」 反対署名提出

上田市真田町大日向自治会・NPO法人平塚らいてうの会・らいてうの家・真田平塚らいてうの会・上田平塚らいてうの会・あずまや高原別荘自治会が一つになって昨年9月以来行ってきた「太陽光発電計画白紙撤回」（事業者に対し）と「不認可要請」（国に対し）にむけた第二次署名4446筆を、3月8日国（環境省）の長野自然環境事務所へ提出、同時に事業者であるHJアセスメント・マネジメント社に送付、その趣旨と署名総数の報告文書を長野県と上田市にも持参、アセス担当の地域づくり工房及び土地所有者の野沢ホスピタリティにも郵送しました。

署名運動を始めてから、新しい動きがありました。昨年11月2日、HJ社による説明会が開催された際、アセス担当の地域づくり工房から「自主簡易アセス中間評価書案」が提示され、基本的に「自然エネルギー」としての太陽光発電設置のメリットを認めつつ、「景観や近隣関係者のこだわり（いわゆる定性的な評価になじまない事項）に特段の配慮を要する」ことも認め、事業者の原案維持のほか景観保全や一部縮小案、さらに「何もしない」という「ゼロ提案」まで4つの選択肢を示すという異例の説明がありました。地域づくり工房からはこれについての意見を求め、公開ワークショップを開催したいという提案もあり、私たちは「ゼロ提案」支持の意見書を提出しました。3月現在「事業者と意見調整中」とのことです、ワ

ークシヨップは開催されていません。

これに先立ち、らいてうの会は昨年9月、地域づくり工房をらいてうの家に招いて意見交換会を実施、11月の説明会にも会員多数が参加して発言、この10年余り私たちが取り組んできた「自然とともに生きる地域づくり」のあゆみを見つめ、環境破壊を思いとどまるように訴えました。特に予定地は単なる「荒地」ではなく、無数の野草や昆虫たちも生きている貴重な自然の宝庫であり、ここを「地域住民、上田市民、長野県民、ホテルの客、らいてうの家訪問者、薬草園関係者」など多くの人びとと協同し、行政の支援も含め「自然と人間が豊かに生きてゆく場」として再構築をめざすべき」というらいてうの会の意見は、これまでの反対意見を越えて地域の再生発展を願う思いに満ちたものとして、多くの方の共感を呼んだと確信しています。「ゼロ提案」は、私たちの運動の成果でもあると言えます。



環境省長野自然環境事務所へ

環境省（長野自然環境事務所）では、この事業についての申請はまだ出ていないため署名受理のみでしたが、応対した担当官は「ゼロ提案」に関心を示し、上田市でも「まだ申請は出ていない」とのことです、「地元自治会を含めてここまで運動が広がった」ことが注目されました。私たちはただ「反対」ではなく、話し合いを重

ねて地域への深い思いを事業者やアセス担当者にも理解してもらって白紙撤回を実現したいと考えています。私たちの願いが実現するかどうかはまだ霧の中ですが、皆様のご協力に感謝しつつ、もう一步運動をひろげるためのお力添えをお願いいたします。

（植草充代）

【事務局日誌】

1月16日 上田・真田役員会
1月23日 ブックレット編集会議

第5回理事会

2月15日 第4回常任理事会・紀要編集会議
2月25日・26日 スノーシューと上田の文化を訪ねる

3月1日 ニュース1000号発行記念の賞状をあかつき印刷からいただく

3月8日 環境省長野自然環境事務所へ太陽光発電計画不認可要請署名提出

長野県と上田市へ趣意書を提出
HJアセスメント社へ白紙撤回要請署名を、野沢ホスピタリティと地域づくり工房へ趣意書を郵送

3月10日 第13回平塚らいてう賞贈賞式（日本女子大）に出席
3月15日 第6回理事会

らいてうの家貸館のお知らせ

かしわばやしの会・朗読と箏曲と歌の会
7月8日（日）1時半から 会費千円
この日の団体予約は行いません。
らいてうの家の見学入館はできます。